

## 第10回海岸工学国際会議雑感

海岸工学国際会議事務局\*

**A:** 海外で開かれる国際会議に出席する機会は、若いときには減多にありませんが、去年9月の東京の会議では、大勢の若い人達が国際会議の雰囲気を感じたように思います。そうした若い人達を代表して貴方の感想をひとつ……。

**B:** あらためて感想をといわれると一寸困ります。国際会議のあとで、12月に仙台で国内の会議もありましたけど、両方をくらべてみますと別に大きな違いはないというのが現在の私の感じなのです。

**A:** 会議の雰囲気には変りがないということですか。

**B:** ええ、日本語で話すのと英語で話すという違いはありましたけれど、発表された論文の内容、質の点では差はなかったように思います。もう少し英語が話せれば、もっと気楽だったでしょう。一部には、日本での会議だから日本語でも討論できると良いという意見もあったようですが……。

**A:** サーキュラーをだすときに、公用語は英仏と明記してあったし、討論時の同時通訳は非常に困難なため、日本語はとりやめになったのでしょうか。もっとも会場では日本語で質問し、誰かが英訳するという場面もありました。特に意志の疎通を欠くということではなかったでしょう。

**B:** フランス語を話す人は少なく、孤立していたように思いましたが……。

**A:** あの人達も英語をきいて理解することはできたようです。使用言語を前もって調査した結果からみてもそうでした。司会者の決定の際には、英語のできる人と仏語のわかる人を組合せるよう配慮したのですが、来日できない人もあって、完全とはいえませんでした。

**B:** 外国人の司会者の司会ぶりは、国内でのものとかかり違っているようでした。

**A:** 具体的にいうとどんな点でしょう。

**B:** まず、制限時間を告げるベルを非常に嫌った司会者が多かったことです。あのような方式で時間制限をすることは、発表者に対して失礼だという観念でもあるのですか。

**A:** あるかも知れませんね。それに司会者も自分の受持ちの所は大いに勉強していますし、発表者も時間内に要点を述べる発表技術の修練をつんでいると思いま

す。たとえば、会議前に司会を依頼する手紙を出しておきましたが、外国人からは承諾の返事とともに、自分の司会する個所の論文を早目に送ってくれという申込みがありました。しかし、国内からは応諾の返事さえ少なかったようです。

**B:** 個々の発表に時間の長短があっても、全体として時間内におさまればよい。しかも重要な point が未発表にならないように留意するのが司会者の役割だということですね。

**A:** そうですね。さらに、討論が活発になるようにも配慮していましたね。会場から質問が無いときには、自分が質問していました。

**B:** 発表がフランス語だったときには英語で要約していましたね。それから、討論のときに質疑でなく、意見を述べるだけの人が多かった。これは国内での会議と違う点の一つだと感じました。

**A:** 同じような問題に取り組んでいる人は沢山いますから、自分の所でやったらどうだったという意見が出るのでしょうか。今度の国際会議でみられた外国人の司会ぶりを大いに見習って、国内での研究発表会の議事の進行も効果的に行なわれるようになることを期待したいですね。ところで、会場の準備等ははどうでしたか。

**B:** 異なった職場や大学の人達が集まったので、事前の打合せ、意志の疎通の点で少し欠けていた点があったと思います。会議場の下見も不十分でしたし、特に他の国際会議とかちあったため、悪条件になったこともありました。

**A:** ホテル側でも一つの学会は同一階に集めるといように気をつかってもらいたかったですね。会議場が一階と三階にわかれたときは、不便でもあるし、間違えやすかったようです。

**B:** 裏のプログラムはどうでしたか。

**A:** Ladies' programme のことですね。古くからの日本と最新の日本を見せるように組んだのですが、まず好評でした。SONY の見学の際等、会議をサポートして女性群にまぎれこんだ外国人男性がいたくらいです。しかし日本人女性の参加が少なくて、釣合いがとれず弱りました。こうした点では、もっと国際会議に慣れて欲しいものです。言葉が通じなくとも、相手をもてなそうという善意は必ず通じるものです。

\* 事務局員全員の意見を対談形式をもって主旨を伝えるようにした。